

報 告

産後 1 か月の母親のソーシャル・キャピタルと
ソーシャルサポートが育児幸福感に及ぼす影響中村登志子¹⁾, 黒木 司²⁾, 大田 明英³⁾

〔論文要旨〕

本研究は産後 1 か月の母親のソーシャル・キャピタル, ソーシャルサポートが育児幸福感に影響を及ぼした要因を明らかにすることを目的とした。産後 1 か月の女性 280 人を対象に, 育児幸福感, ソーシャル・キャピタルおよびソーシャルサポートに関する自記式質問紙調査を実施した。統計学的検討には, Pearson の相関を用い, いずれも有意水準は 5% とした。有効回答率は 162 人 (57.9%) であった。相関分析でソーシャル・キャピタルのうち「互酬性」への意識は, 育児幸福感の「育児の喜び」($p < 0.01$) と「夫への感謝」($p < 0.05$) に関連していた。重回帰分析の結果, 育児幸福感の「育児の喜び」にはソーシャル・キャピタルの「互酬性」とソーシャルサポートの「情緒的サポート」が影響していた。さらに, 育児幸福感の「夫への感謝」はソーシャル・キャピタルの「互酬性」が影響していた ($p < 0.05$)。本研究により, (a) 社会で活動したいと思う気持ちが高い母親ほど「育児の喜び」や「夫への感謝」を感じており, (b) 情緒的なサポートが得られているほど, 「育児の喜び」も強いことが示された。産後 1 か月の母親を支援するうえで, これらの影響要因に注目する必要性が示唆された。

Key words : ソーシャル・キャピタル, ソーシャルサポート, 子育て支援, 育児幸福感

I. 目 的

少子高齢化社会を迎えた日本において, 子育て支援対策は社会全体で取り組むべき喫緊の課題である。実際の「子育て」現場において, コミュニティの中で孤立している親の存在や児童虐待の増加, 更には異年齢の子どもたちと遊ぶ機会の激減や子どもの健全な発達に必要な社会環境の悪化など, 様々な問題が提起されている¹⁾。これらを踏まえて, 2015 年に開始された「健やか親子 21 (第 2 次)」では「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」を掲げ, 親子を取り巻く温かな環境形成の重要性が示された。しかし, 合計特殊出生率が 1995 年から 1.5 未満と低水準で経過し, その成果は十分であるとは言えない。出産適齢期女性の減少に伴い, 今後ますます出生率は低下すると予測さ

れており, 少子化対策は早急に取り組むべき社会問題となっている。子育て支援政策の基本方針としては, 核家族化の進行に伴い, 育児の孤立感や不安感を招くことにならないよう, ボランティアの活用など地域子育て支援拠点事業が進められている²⁾。しかし近年, 都市を中心に子育て世代は異世代間交流などを含めた「ご近所づきあい」が希薄化し, 少子化対策の新たなアプローチとしてソーシャル・キャピタル (社会関係資本) が注目されている。ソーシャル・キャピタルとは, 地域の人々の間の信頼関係やネットワークを意味し³⁾, その研究は近年活発に行われて, 教育・政治・経済などさまざまな分野でその有用性が検証されている⁴⁾。これまで成人や高齢者を対象としたものが多かったが, 近年は子育て世代を対象とした研究も増えている。しかし, その内容は子育ての社会化に関する報告⁵⁾,

Impact of Social Capital and Social Support on Happiness felt by Mothers of One-Month-old Babies
Toshiko Nakamura, Tsukasa Kuroki, Akihide Ohta

(32005)

受付 20. 1.29

1) 帝京大学福岡医療技術学部看護学科 (研究職/助産師)

採用 21.10.15

2) 福岡国際医療福祉大学看護学部看護学科 (研究職/保健師)

3) 医療法人社団高邦会介護老人保健施設水郷苑, 国際医療福祉大学大学院 (医師/内科)

出産の意思決定や出生率上昇に関する報告などに止まり⁶⁾、子育ての環境に関するソーシャル・キャピタルの研究は未だ少ない。また、これまでの育児支援に関する研究では、育児不安・育児ストレスなどの実態やその対処、ソーシャルサポートの観点からみた研究等が多く、「親の力を活用」するための検討が不十分であると言われている^{7,8)}。

一方、子育てにおけるソーシャルサポートとは育児遂行にあたって周囲から得られると認知する援助を指し、その援助の提供者としては、夫や実父母、あるいは義父母などの「家庭内」サポートと、友人や専門家などの「家庭外」サポートがあるが、中でも夫の育児参加は母親の育児に対する肯定感を高め、制約感を低くすることが明らかになっている⁹⁾。

本研究では、子育てを担う親がその役割を發揮でき、親自身の持てる力を生かせるような支援が重要だと考えた。そこで、育児によってもたらされる母親の幸福感である育児幸福感に着目した。多様な状況の母親へ支援を行うためには、個人をとりまくソーシャルサポートに止まらず、ソーシャル・キャピタルの視点から、社会全体での子育てを考えることも重要であろう。そこで、ソーシャル・キャピタルを醸成する基礎データとするため、母親の意識と行動を探りソーシャル・キャピタルとソーシャルサポートが、育児幸福感にどのように影響を及ぼすのか明らかにすることを目的とした。

II. 操作的用語の定義

1. 育児幸福感

育児によってもたらされる幸福感、育児中に感じる肯定的な情動を言う¹⁰⁾。

2. ソーシャル・キャピタル

人々の協調行動を活発にすることによって社会の効率性を高めることのできる「信頼、規範（互酬性）、ネットワーク」といった社会組織の特徴であり、共通の目的に向けて効果的に協調行動へと導く社会関係資本である¹¹⁾。

3. ソーシャルサポート

対人的相互作用における情緒的サポート、手段的サポート、情動的サポート、評価的サポートのやりとりであり¹²⁾、周囲から得られると認知する援助を指す。

III. 対象と方法

1. 対象と調査方法

研究対象者は、九州北部の都市部近郊にある住宅地にあり、分娩を取り扱う産婦人科外来を有する病院と診療所あわせて2施設にて1か月健診を受けた女性とした。平成29年10月18日から平成30年1月を調査期間とし、著者が説明文を同封した質問紙を配布した。対象施設の協力を得て、外国籍の女性、調査による負担を配慮して身体的または精神的に安定していないと対象施設で判断した場合や、未成年の特定妊婦は配布の対象から除外した。調査期間内に2施設合わせて280通を配布した。回答は施設に設置した鍵付きのポストへの投函か著者への直接の郵送によって回収した。

2. 調査内容および使用尺度

1) 基本的属性（デモグラフィックデータ）

母親の年齢、子どもの数、分娩形式、分娩時週数、分娩時異常の有無、病名、職業形態居住年数、居住継続の有無、同居人数、家族構成、既婚未婚の別、最終学歴について質問した。

2) 育児幸福感を示す尺度

Lazarus & Folkman の理論における育児中の母親の肯定的な情動を「育児幸福感」とし¹³⁾、清水らが開発した多面的な育児幸福感を捉える尺度で¹⁴⁾、「育児の喜び」「子どもとの絆」「夫への感謝」の3つの下位尺度13項目からなる育児幸福感短縮版尺度（Short-form of Child-care Happiness Scale : CHS）を用いた¹⁰⁾。

本研究においては、対象者の児が生後1か月であるため、その発達段階から考慮し「どんなに叱っても『お母さん大好き』と1日に何回も言ってくれ、子育てしていて唯一安心する」の1項目を尺度開発者の許可を取ったうえで除外し、12項目で尺度を使用した。回答は5段階評価で、得点が高いほど育児によってもたらされる幸福感が高いことを示す。

3) ソーシャル・キャピタルを示す質問項目

ソーシャル・キャピタルとは地域の人々との信頼関係やネットワークを意味し「互酬性、ネットワーク、信頼」といった社会組織の特徴を示し、社会関係資本といわれる。本研究においては、内閣府国民生活局による全国調査で使用されたソーシャル・キャピタル（Social Capital : 以下 SC）の15の質問項目を用いた⁶⁾。これは、市民活動とソーシャル・キャピタルとの関係

をみるために開発されたもので、個人の意識と行動を把握するために作成され、〈隣近所との付き合いの程度〉〈一般的な人への信頼〉などで構成されている。そのため、本研究においてはソーシャル・キャピタルの「互酬性、ネットワーク、信頼」といった構成要素について母親個人の意識と行動を把握するために採用した。全体の傾向を把握し、因子ごとに分析するために、そして構成要素が本研究でも当てはまるか確認するために因子分析を行った。得点が高いほど、ソーシャル・キャピタルに関する意識が高いことを示す。

4) ソーシャルサポートを示す尺度

育児支援が必要な就学前の子どもの養育に関するソーシャルサポートの認知を把握するため開発された¹⁵⁾。未就学児のいる親用ソーシャルサポート認知スケール (Social Support Perception Scale for Parents Rearing Preschoolers : SSPS-P) を用いた。このスケールは、House の概念に基づき¹²⁾、「情緒的サポート」「手段的サポート」「情動的サポート」「評価的サポート」の4つの下位尺度と7種類のサポーター (配偶者、身内、友人・知人、近所の人、仕事仲間、保育士・教員、医療関係者) についての全36項目からなる。回答は、「たくさんある」～「ほとんどない」の5段階評価で、得点が高いほどサポート認知が高いことを示す。

3. データの分析方法

各変数の基本統計量の算出後、ソーシャル・キャピタルの質問項目を選定するために各項目を除外した場合のI-T相関分析を行い、さらに信頼性を深めるために、クロンバックの α 係数を確認した。先行研究の構成要素が本研究においても当てはまるかどうかを確認するために確認的因子分析 (主因子法, Varimax回転) を行った。Pearson の積率相関分析を行い、その後、「ソーシャル・キャピタル」「ソーシャルサポート」の各因子と属性による育児幸福感への影響を検討するために、育児幸福感を従属変数、ソーシャル・キャピタル、ソーシャルサポートを説明変数として重回帰分析を行った。データの分析には統計ソフトSPSS version24.0を使用し、有意水準は5%とした。

4. 倫理的配慮

研究の趣旨と倫理的配慮 (質問票への回答は無記名で個人は特定されないこと、自由意志によるものであること、データは本研究以外に使用しないこと、質問

票は研究終了後5年間保存しその後廃棄すること等) の説明文を質問票に添付し、同意書の返送をもって同意とした。本研究は、聖マリア学院大学研究倫理委員会の承認 (承認番号29-011, 平成29年10月18日) を得て実施した。

IV. 結 果

回答者は162人 (有効回答数57.9%) で、経産婦が約6割であり、分娩形式は経膈分娩が81.1%であった。職業は常勤が42.5%で専業主婦が34.4%であり、地域活動意欲は、参加「したい」が40.2%、「したくない」が15.9%、「わからない」が43.9%で最も多かった (表1)。

まず、ソーシャル・キャピタルについて、内閣府国民生活局による調査で採用されたソーシャル・キャピタルの15の質問項目を、因子ごとに分析するために確認的因子分析を行った⁶⁾。天井効果のみられた〈家族への信頼〉を削除し14項目を因子分析対象とした。I-T相関分析で0.25以下であった〈職場の同僚への信頼〉、および因子負荷量0.45以上を示さなかった〈親戚との付き合いの頻度〉など5項目の計7項目を除外し、3因子8項目が抽出された。国民生活局とPutnamの調査を参考に^{6,11)}、構成要素を3つとし、表2の如く社会的な活動意欲を「互酬性」4項目、付き合いの人数等を「ネットワーク」2項目、一般的な信頼感等を「信頼」2項目、と、それぞれ再分配を行った (α 係数=0.72~0.81)。8項目全体のクロンバックの α 係数は0.77であった。

ソーシャル・キャピタルと育児幸福感の関連性を検証した結果、ソーシャル・キャピタルの「互酬性」への意欲が高い母親ほど、育児幸福感の「育児の喜び」 ($r=0.27, p<0.01$)、「夫への感謝」 ($r=0.23, p<0.05$) が正の相関を示した (r =Pearsonの相関係数)。また、身内から情動的・評価的サポートを受けている母親ほど、育児幸福感の「子どもとの絆」を強く感じていた (情動的サポート： $p<0.01$, 評価的サポート： $p<0.05$)。保育園・学校の先生から評価的サポートを受けているほど、育児幸福感の「子どもとの絆」を強く感じていた ($p<0.05$)。さらに、医療関係者からの情動的・評価的サポートを受けているほど、SF-CHSの「育児の喜び」を感じ ($p<0.05$)、評価的サポートを受けているほど「子どもとの絆」を感じていた ($p<0.05$) (表3)。

表1 基本的属性

		n = 162	
		人数 (%)	
年齢区分	20-24	8	(5.0)
	25-29	44	(27.7)
	30-34	64	(40.3)
	35-39	34	(21.4)
	40-44	9	(5.7)
子どもの数	初産婦	60	(37.5)
	経産婦	100	(62.5)
分娩形式	経膈	120	(81.1)
	帝王切開	28	(18.9)
職業	常勤	68	(42.5)
	パート	33	(20.6)
	専業主婦	55	(34.4)
	その他	4	(2.5)
居住年数	1年未満	19	(11.9)
	1～2年未満	23	(14.4)
	2～5年未満	51	(31.9)
	5～10年未満	24	(15.0)
	10～20年未満	16	(10.0)
	20年以上	27	(16.9)
定住意欲	住み続けたい	104	(65.0)
	どちらでも	40	(25.0)
	引っ越したい	16	(10.0)
地域活動意欲	参加したい	33	(40.2)
	わからない	36	(43.9)
	したくない	13	(15.9)
最終学歴	中学校	5	(3.1)
	高校	32	(20.0)
	専修学校	40	(25.0)
	短大	32	(20.0)
	大学	50	(31.3)
	大学院	1	(0.6)

ソーシャル・キャピタルとソーシャルサポートの、どの要因が育児幸福感に影響を及ぼすかを探るために、SF-CHSを従属変数に、SCの3因子、SSPS-Pの4因子を独立変数として解析を行った。その結果、育児幸福感の「育児の喜び」に影響を及ぼしていたのはソーシャルサポートの「情緒的サポート」($\beta=0.37$, $p<0.05$)、ソーシャル・キャピタルの「互酬性」($\beta=0.23$, $p<0.05$)であった。育児幸福感の「夫への感謝」に影響を及ぼしていたのは、ソーシャル・キャピタルの「互酬性」($\beta=0.22$, $p<0.05$)だった(表4)。

V. 考 察

1. 対象の特性と測定の妥当性

本研究の対象の背景は、分娩様式が経膈分娩81.1%というローリスクの集団であった。年齢区分は、ほとんどが20から30代で全国の出産年齢の分布と同様で年齢には偏りが無い集団であると思われた。また、20歳代から高齢者までを対象とした全国調査と比較すると⁶⁾、本研究の対象の方が居住年数は短かった。居住年数とは同地区に居住している年数であるが、この年数が短い理由として、子育て世代は20歳代から高齢者の全世代と比較すると、転居等で同じ土地に長年住む割合が少ないと予測された。従って、慣れない土地で子育てしている割合がやや高い集団と考える。定住意欲に関しては「住み続けたい」、「どちらでも」を合わせると90.0%と先行研究と同程度で⁶⁾、自分の住

表2 ソーシャル・キャピタル質問項目の因子分析

因子名 項目	因子負荷量		
	因子1	因子2	因子3
1. 互酬性 ($\alpha=0.72$)			
ボランティア活動への参加意欲	0.882	-0.113	0.013
趣味の活動への参加意欲	0.733	-0.105	-0.151
その他の活動への参加意欲	0.640	-0.062	-0.165
地域活動への参加意欲	0.419	-0.358	-0.029
2. ネットワーク ($\alpha=0.78$)			
隣近所との付き合いの程度	-0.200	0.840	-0.018
隣近所との付き合いの人数	-0.032	0.687	0.185
3. 信頼 ($\alpha=0.81$)			
一般的な人への信頼	-0.265	0.049	0.845
見知らぬ土地での人への信頼	0.111	0.270	0.506
分散	2.03	1.41	1.04
寄与率	25.31	17.62	12.94
累積寄与率	25.31	42.93	55.86

主因子法, Varimax 回転

表 3 ソーシャル・キャピタルおよびソーシャルサポートと育児幸福感の相関

Factor	CHS			
	1. 育児の喜び	2. 子どもとの絆	3. 夫への感謝	
SC	1. 互酬性	0.27**	-0.08	0.23*
	2. ネットワーク	0.05	0.04	-0.04
	3. 信頼	0.14	0.03	0.13
SSPS-P	パートナー			
	情緒的サポート	0.03	-0.14	0.41**
	手段的サポート	-0.03	0.41**	0.37**
	情動的サポート	0.16	0.30*	0.35**
	評価的サポート	0.17	0.10	0.39**
	身内			
	情緒的サポート	0.09	0.05	0.46**
	手段的サポート	0.02	-0.04	0.16*
	情動的サポート	0.18	0.21**	0.36**
	評価的サポート	0.23*	0.19*	0.33**
	友人			
	手段的サポート	0.12	0.08	0.19*
	保育園・学校の先生			
	評価的サポート	0.03	0.16*	0.01
	医療者			
	情緒的サポート	0.21*	0.06	0.06
	評価的サポート	0.22*	0.23**	0.18

Pearson の積率相関

*p<0.05, **p<0.01

CHS: 育児幸福感尺度 SC: ソーシャル・キャピタル質問項目

SSPS-P: 未就学児の親用ソーシャルサポートスケール

表 4 ソーシャル・キャピタルおよびソーシャルサポートから育児幸福感への重回帰分析

従属変数	独立変数	t	標準β	R ²	調整済み R ²	
SF-CHS	SSPS-P					
	1. 育児の喜び	1. 情緒的サポート	2.18	0.37*		
		2. 手段的サポート	0.09	0.01		
		3. 情動的サポート	0.25	0.05		
		4. 評価的サポート	1.65	0.32	0.159***	0.084*
		SC				
		1. 互酬性	2.12	0.23*		
		2. ネットワーク	0.27	0.03		
		3. 信頼	1.83	0.21		
	3. 夫への感謝	SSPS-P				
		1. 情緒的サポート	1.87	0.29		
		2. 手段的サポート	1.79	0.25		
		3. 情動的サポート	0.18	0.03		
		4. 評価的サポート	-0.6	-0.11	0.267***	0.201***
		SC				
		1. 互酬性	2.14	0.22*		
	2. ネットワーク	-1.22	-0.12			
	3. 信頼	0.84	0.09			

従属変数: CHS 独立変数: SSPS-P, SC

*p<0.05, **p<0.01, ***p<0.001

CHS: 育児幸福感尺度 SSPS-P: 未就学児の親用ソーシャルサポートスケール

SC: ソーシャル・キャピタル質問項目

んでいる街での定住意欲は高く、一般的な集団とはほぼ変わらないという結果であった。本研究では、「今後地域活動に参加したいかどうか」の質問に対し、43.9%が「わからない」と回答しており、最も多かった。

本研究では、ソーシャル・キャピタルの測定の妥当性を検証した。ソーシャル・キャピタルの質問項目の定量的測定については、因子負荷量は0.45以上を確保できた。クロンバックの α 係数は「互酬性 ($\alpha=0.72$)」「ネットワーク ($\alpha=0.78$)」「信頼 ($\alpha=0.81$)」であり、内的整合性の妥当性が確保されたため、本研究での測定は可能であると考えられた(表2)。

2. ソーシャルサポートと育児幸福感の関連性

本結果より、パートナーと身内から多くのサポートを受けている者は、育児幸福感の「夫への感謝」と関連があった。山口らは、父親が情緒的支援行動をよくするほど、母親の育児負担は少ないと述べている¹⁶⁾。中山らは、情緒的支援行動は育児を一緒に行っている気持ちである「育児共同感」に関連していると報告している¹⁷⁾。そして岡らは、産後1か月の初産婦は、情緒的サポートによってパートナーへの信頼を深め「夫となら一緒に頑張れる」という自信につながっていたと述べている¹⁸⁾。これらの先行研究は、本研究のパートナーのサポートが育児の肯定感情への好影響を示す結果と一致している。さらに、身内からの「情動的・評価的」サポートは「子どもとの絆」を深め、「評価的」サポートは「育児の喜び」を高めていた。山口らは、産後1か月の母親は実母からのサポートが得られることによる対処行動への効果を明らかにしているが¹⁹⁾、本研究においても同様に身内のサポートによる育児幸福感への効果が示された。その結果から、子どもの親だけでなく親以外の家族も育児情報を与え共有する情動的サポートや、言葉や態度などで母親を認め、高く評価する評価的サポートが育児幸福感を高めるために有効だと考える。

パートナーや身内以外のソーシャルサポートについては、保育園・学校の先生の評価的サポートが母親の育児幸福感の「子どもとの絆」と関連していた。保育・教育の専門職から高く評価されると、母親は育児に自信がもてるであろう。それが、育児への幸福感情を高め、子どもとの絆を深めると推測する。さらに、医療者の情緒的・評価的サポートが育児幸福感の「育児の喜び」に関連していた。情緒的サポートとは、「共感・

信頼・世話など精神的な支え」である¹²⁾。医療・ケアの専門職から得られる寄り添うサポートや、専門的知識を持った者からの高い評価は、母親として「私はこれでいいのだ」と母親の育児へ自信を高め、心の余裕が生まれ、「育児の喜び」といった育児を楽しむ喜びにつながった可能性がある。この結果から、保育・教育・医療の専門職からのサポートの重要性が明らかとなった。

一方、「近所の人」「仕事仲間」に関しては、「存在する」と回答があるものの、育児幸福感に関連する要因はなかった。この結果から、サポーターは存在するのに十分活用されていない現状が明らかになった。本研究の結果では約4割に社会活動意欲があり、先行研究では、地域の活動を継続したいという若者も約3割存在していた²⁰⁾。報告事例では、結婚する前の世代である大学生に対し、社会参加しやすい取り組みとして「地域連携の体系化」が進められており、パソコンやスマートフォンを使った情報配信システムが検討されている²⁰⁾。このように若い世代の社会参加をうながし、それぞれの実情に合わせた参加形態を工夫し社会参加しやすいシステムを構築する必要がある。本研究では様々なソーシャルサポートのうち、情緒的なサポートが育児幸福感に好影響を及ぼしていた。田並他¹²⁾は、子育て中の母親は情緒的にサポートされると応答的な対応ができ、応答性の高い母親は愛着形成を結びやすいと述べている。母親は情緒的サポートを受けることにより、共感的、受容的に支えられている感覚を抱く。この支えられている感覚が、育児の幸福感を高めたのであろう。さらには育児の幸福感の高まりが育児への自信や母親の自らの力を引き出すといった好循環につながることを期待したい。

3. ソーシャル・キャピタルによる育児幸福感への影響

本研究においては、有意差はあるが「育児の喜び」の決定係数の値が低く、影響要因として断言し難いものの、社会活動への意欲が母親の育児幸福感の「夫への感謝」に好影響を及ぼした可能性がある。幼い子どもを育てる母親が社会参加するためには、夫など他者の協力が不可欠である。本研究の結果から、子育て世代の母親の社会参加が、個人的かつ主観的感情である育児幸福感に影響を及ぼしていた。育児中の母親が、家庭の中だけに留まらずに広く交流の機会をもちたいという意欲を活かすことは、育児の「孤立化」の予防

だけでなく、「夫に感謝する」という夫への関係性にも好影響を及ぼした可能性がある。そのため、母親自らが主体的に社会活動を行いたいと思えるような環境整備が重要である。

本研究では地域活動に参加したいかどうか「わからない」という育児中の母親たちが最も多かった。このように社会参加を拒んでいるわけではない母親たちが、気軽に参加したいと思え、参加しやすい仕組み作りが重要であろう。近年、例えば趣味嗜好で繋がるコミュニティなど、子育て世代や将来親になる若者のニーズに合った方法でコミュニティに参加できるよう、ICTを活用した情報提供、魅力ある企画運営など、今の時代に合った多様な状況下の母親への支援が望まれる。地域との関係性を再構築し、子育て世代の親自らがソーシャル・キャピタルを醸成することが子育て環境に有効である。本研究の結果から、社会活動への意欲が、母親の主観的な感覚である育児幸福感に好影響を与えた可能性がある。これはソーシャル・キャピタルの醸成のための貴重な基礎的データとなり得ると考える。自治体による実態調査の結果では、地域へ参加する学生の多くが、子どもの頃に親と一緒に行事を楽しんだ経験を持っている²⁰⁾。このような次世代へ繋ぐ「楽しかった経験」となるような地縁行事の機会を継承できるような取り組みが重要である。地域で助け合う精神を改めて見直し、子育てを担う多くの若い世代が地域活動に参加し、地域の子育て支援のためのソーシャル・キャピタルを醸成するような双方向の効果を期待したい。

4. 研究の限界と課題

本研究は2施設の母親を対象としたため、一般化するには限界があり、今後サンプル数を増やし再検討していく必要がある。ソーシャル・キャピタルの質問項目の因子分析においては、本研究においてはある程度の信頼性の確保はできたが、因子分析後に抽出された因子について専門家の見解と比較するなど高い内容妥当性を検討する余地がある。また、産後1か月という1時点の調査のみでは、地域や集団を見据えた支援は難しい。そのため、今後、産後1か月から子どもの成長とともにどのように母親の認識が変化し、どのように地域に参加しているのかを縦断的に調査し、因果関係を明確にすることが子どもの成長時期に応じた支援に繋がると考える。

VI. 結 論

1. 地域活動意欲のある母親のほうがない母親に比べ育児幸福感の「育児の喜び」が高かった。
2. 因子別比較では、ソーシャル・キャピタルの「社会参加」する気持ちが高いほど育児幸福感の「育児の喜び」「夫への感謝」の念が高かった。
3. ソーシャルサポートの「情緒的サポート」およびソーシャル・キャピタルの「社会参加」は、育児幸福感の「育児の喜び」に好影響を及ぼし、「社会参加」は、育児幸福感の「夫への感謝」に好影響を及ぼしていた。

謝 辞

本研究にご協力いただきました皆様をはじめ、研究協力施設の皆様に深く感謝申し上げます。本論文は第38回日本看護科学学会学術集会で発表した内容を一部加筆・修正した。

利益相反に反する開示事項はない。

文 献

- 1) 齋藤克子. ソーシャル・キャピタル論の一考察 子育て支援現場への活用を目指して. 京都女子大学大学院現代社会研究科紀要 2008; 2: 71-82.
- 2) 地域子育て拠点事業の実施について (4次改定). <https://www.mhlw.go.jp/content/000638481.pdf> (参照 2020.09.13)
- 3) 関口真菜, 徳田晃久, 山崎怜衣亜, 他. “ソーシャル・キャピタルは出産の意思決定に影響を及ぼすのか”. http://www.west-univ.com/library/2012/12_best2_D.pdf (参照 2017.04.15)
- 4) 山内直人, 伊吹英子. 日本のソーシャル・キャピタル. 大阪: 大阪大学大学院国際公共政策研究科 NPO 研究情報センター, 2005
- 5) 山口のり子, 尾形由起子, 樋口善之, 他. 子育ての社会化についての研究 ソーシャル・キャピタルの視点を以て. 日本公衛誌 2013; 60(2): 69-78.
- 6) 内閣府国民生活局編. ソーシャル・キャピタル 豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて. 東京: 国立印刷局, 2003: pp 47-57.
- 7) 池本美香. 子ども・子育て支援新制度の課題～海外の子育て支援の動向をふまえて～. 小児保健研究 2015; 74(6): 797-799.

- 8) 山縣然太郎. 「健やか親子 21 (第2次)」を踏まえた母子保健計画の作成にあたる基本的な考え方”. <http://www.jfpa.info/boshi/archives/27/pdf/01/shiryo01.pdf> (参照 2017.08.09)
- 9) 若松素子, 柏木恵子. 「親となること」による発達: 職業と学歴はどう関係しているか. 発達研究 (発達科学研究教育センター) 1994; 10: 83-98.
- 10) 清水嘉子, 関水しのぶ, 遠藤俊子. 母親の育児幸福感尺度の短縮版尺度開発. 日本助産学会誌 2010; 24 (2): 261-270.
- 11) Putnam RD, Bowling Alone. The Collapse and Revival of American Community. New York: Simon and Schuster, 2001: pp 296-306.
- 12) House JS. Work stress and social support. Massachusetts: Adison-Wesley, 1981.
- 13) Lazarus R, Folkman S. Stress appraisal and coping. Springer Pub Co. 1984./ 本明 寛他監訳. ストレスの心理学. 東京: 実務教育出版, 1991; 269-277
- 14) 清水嘉子, 関水しのぶ, 遠藤俊子, 他. 母親の育児幸福感一尺度の開発と妥当性の検討. 日本科学学会誌 2007; 27(2): 15-24.
- 15) 平谷優子, 法橋尚宏. 未就学児のいる親用ソーシャルサポート認知スケール (Social Support Perception Scale for Parents Rearing Preschoolers : SSPS-P) の開発とその有効性の検討. 家族看護学研究 2013; 19 (1): 2-11.
- 16) 山口咲奈枝, 佐藤幸子, 遠藤由美子. 未就学児をもつ父親の育児行動と母親の育児負担感との関連. 母性衛生 2014; 54(4): 495-503.
- 17) 中山美由紀, 三枝 愛. 1歳6カ月児をもつ母親に対する父親の育児支援行動. 母性衛生 2003; 44(4): 512-520.
- 18) 岡 未奈, 佐々木睦子, 石上悦子. パートナーからの情緒的サポートに対する産後1か月の初産婦の思い. 香川大学看護学雑誌 2019; 23(1): 1-10.
- 19) 山口咲奈枝, 遠藤由美子, 小林尚美, 他. 産後1か月の母親の育児に対する対処行動の実態および対処行動と育児不安, ソーシャルサポートとの関係. 母性衛生 2009; 50(1): 141-147.
- 20) 高崎市社会教育委員会議. “若者の地域参加を促す社会教育の役割と支援 (答申)”. www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2014010700018/files/toushin.pdf (参照 2019.12.10)
- 21) 田並幸恵, 米澤好史. 未就学児を育てる母親の養育態度とソーシャルサポート・自己評価の関係選一愛着形成の視点から一. 和歌山大学教育学部紀要 2019; 69: 27-34.

[Summary]

This study aimed to identify which elements of social capital and social support affected happiness among mothers of one-month-old babies. We administered a self-report questionnaire to 280 mothers receiving a one-month postpartum examination at an obstetric hospital. For examination of differences, Pearson's product moment correlation coefficient was used for correlation analysis (significance level was set at 5% for all tests). There were 162 (57.9%) valid responses. The results of the correlation analysis revealed that awareness of reciprocity was associated with “joys of child-care ($P<0.01$)” and “husband's support ($P<0.05$)” in the Short-Form Childcare Happiness Scale (SF-CHS). Multiple regression analysis showed that “joys of child-care” of the SF-CHS was significantly influenced by “reciprocity” of social capital and “emotional support” of social support. In addition, “husband's support” of the SF-CHS was significantly influenced by “reciprocity” of social capital ($p<0.05$). This study showed that: (a) mothers who intended to actively participate in society tended to experience greater “joys of child-care” and “husband's support,” and (b) mothers who received emotional support tended to have higher “joys of child-care.” Therefore, attention should be paid to these influencing factors in providing support to mothers at one-month postpartum.

Key words: social capital, social support, childcare support, childcare happiness